

シャイン

— 受講のきっかけと今 —

シャイン 011号

養成講座がくれた新たな目標

花木 裕介さん

会社名：ティーベック株式会社

所属：CTSセンター(研修運営担当)

役職：マネージャー



【受講のきっかけ】

転職した医療関連サービス提供会社にて、メンタルカウンセリングを生業とする心理カウンセラーたちの中にシニア産業カウンセラーも多数活躍しており、自分もそれらの知識や技術を身に着けたいと思ったこと、また私は、メンタルヘルスの研修運営を行う部署に在籍しており、自身も講師としても登壇できるよう、その知識面における土台づくりをしたいと考えたからです。

【資格取得後の活動状況】

クライアント役の言葉の中から「感情」の含まれたワードに焦点を置き、寄り添っていく。ついアドバイスしたくなったとしても、ひたすら相手を中心に据えたコミュニケーションを心がける。それは私にとって、漫画『巨人の星』に出てくる「大リーグボール養成ギブス」をはめているように窮屈なものでした。しかし、そのギブスの甲斐あり、講座受講中でありながら、積極的に職場においても「傾聴」を活用し、結果として周囲からも徐々に信頼を寄せられ、大きな仕事を任されるようになっていきました。

そんな面接実習全てを終えた2ヶ月後の2017年11月。学科試験を2ヶ月先に控えていた私は、人生最大のピンチを迎えることとなります。それは、『中咽頭がん』の告知を受けたこと。このときは、未来が急に四方向から閉ざされた感じがしました。数日は何をするに

も不安ばかりが先行しましたが、主治医の診断の結果、治療をやりきれば高い可能性で回復することが分かり、それからは養成講座で取り組んだもう一つのテーマ「自己開示力」をさらに高めるチャンスなのでは、と思うようになりました。

まず私は、社内外にがんであることを公表することにしました。自分の弱みを晒さなくてはならないことから簡単な決断ではありませんでしたが、養成講座で得た学びが私を後押ししてくれました。また、治療中は、ブログで治療や自身の気持ちを発信していくことで、自己開示と同時に治療における精神的な拠り所も手に入れることができました。

がん治療とはいえ、やはり障害になりうるのは「メンタルコントロール」や「人間関係」であるということも経験上学びました。だからこそ、患者の立場であれ、支える立場であれ、産業カウンセラー養成講座で学んだことは、大変価値のあるものだと感じています。

抗がん剤治療の合間に受験した今年1月の学科試験は、残念ながら勉強不足により不合格でした。しかし今、治療がひとまず終わり職場復帰を目指している私の中に、「がん治療で悩みを抱える方の支援をしたい」という新たな目標が生まれてきています。

ブログ：[38歳2児の父、まさかの中咽頭がんステージ4体験記！](#)